

[JPACP2024-010] 認定心理士の会 公開シンポジウム「現代にこそ大事な学びとは」(9/28)

If you are unable to see this message, click the URL below.
<https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2024/06/JPACP2024-010.pdf>

公益社団法人日本心理学会 認定心理士 各位

◆-----◆
認定心理士の会 公開シンポジウム

「現代にこそ大事な学びとは」

https://psych.or.jp/authorization/240928_kyuoki/
◆-----◆

日時：2024年9月28日(土) 13:00—16:00 (開場 12:50)

会場：オンライン会場

概要：

学校では、時代に合わせた学び方があります。例えば、コロナ禍以降は ICT 教育が普及し、以前とは学びの道具や学びの方法が大きく変わりました。ですが、道具や方法が変わったとしても、学校で学ぶのは“人”であることは変わりません。“学ぶ人”の“心”次第で、その人の学びは変わってくるでしょう。では、学びにとって大事な心の持ち方は、時代とともに変わるものなのでしょうか。それとも、変わらないものなのでしょうか。3名の専門家とともに考えていきたいと思いません。

講演者：

生田 淳一先生 (福岡教育大学)

「自ら問うことの価値」

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の実現に向けて、学校での学びはアップデートしている。その中で「自ら学ぶ力」を育むことの大切さについて考えさせられることも多い。ここでは、学びの変化の中での学習者の主体的な学びを支える「自ら問うこと(自己発問)」の価値について再考したい。本発表では、特に学校の授業場面に焦点をあて、自ら問うことを中心にした学びの可能性と限界について検討する。その上で、問う力の育成について提案したい。

野上 俊一先生 (中村学園大学)

「知りたい気持ち」

テストの問題の正解が知りたい、明日の天気が知りたい、話の続きが知りたい、友だちの気持ちが知りたい、など、「知りたい」気持ちは学校場面や日常生活場面で頻繁に生じています。この「知りたい」気持ちについての心理学研究を概観

し、特に「知らないから知りたい」と「知っているからもっと知りたい」の2つのプロセスの共通する部分と異なる部分に注目し、主体的な学びについて考えたいと思います。

尾之上 高哉先生（宮崎大学）

「学習内容の定着を図るために」

学習内容の定着は、教育で目指される目標の1つである。定着を促進する方法の1つに、「練習して」定着させる、という方法がある。これまでの研究では、その練習の仕方を、ブロック練習と交互練習という観点から捉える枠組みがある。両者の違いは、一見、取るに足らないようにも見えるが、これまでの研究を見る限り、練習の効果に大きな違いが生じる可能性もある。そこで本発表では、これまでの研究をもとに、まずブロック練習と交互練習の違いを整理し、その上で、それぞれの利点と弱点、及び弱点への向き合い方を整理する。

* 事前申し込み制です（定員 1000 名）。

* どなたでもご参加いただけます。

お申し込み方法：

日本心理学会ホームページにてご案内をしております。下記の申し込みサイトより該当の「イベント名」と「開催日」をご確認の上、必要事項を入力してお申し込みください。

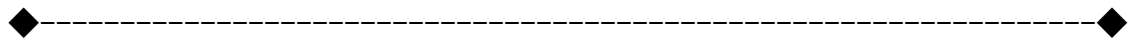
https://psych.or.jp/authorization/240928_kyuoki/

申し込み期限：2024年9月24日（火）

イベントに関する問い合わせ先：

公益社団法人日本心理学会 認定心理士の会

jpa-ninnokai-event@psych.or.jp



■認定心理士の会 行事

（公開行事） <https://psych.or.jp/authorization/ninteinokaievent/>

（新刊連動講座） <https://psych.or.jp/authorization/ninteinokai-book/>

■メール配信バックナンバー

<https://psych.or.jp/authorization/mailservice/>

■認定心理士の会 ニュースレター

<https://psych.or.jp/authorization/ninteinokai02/>

